

企画 3 | 日本でのらくらく生活マニュアル

団体の名称

武上ゼミ

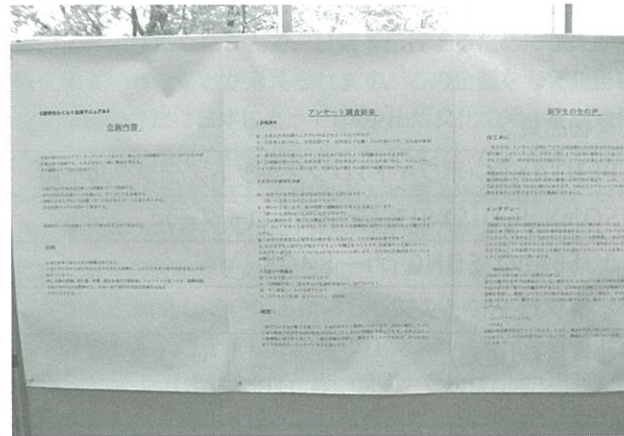
代表者氏名・学部学科名等

町田 和子
商学部国際ビジネス学科 3年

実施期間・日程

平成23年7月～11月

- 7月11日 第一回アンケート実施
- 7月14日 第二回アンケート実施
- 7月22日 アジア文化会館訪問
- 9月24日 第一回日本人と留学生の交流会
- 9月28日 等強YWCA訪問
- 9月30日 バングラデシュ大使館訪問
- 10月14日～16日 紅陵祭で発表



アンケートの結果などを紅陵祭で発表

実施内容

私たちは留学生が日本で楽に生活できるよう各国の留学生にヒアリング・アンケートをとり、困っている問題をテーマに分けてその対応策を皆で相談しました。日本人学生と留学生と一緒に日本で生活する中で困った問題をゼミで相談し、その中から共通テーマを選んで、アンケートを実施しました。

留学生を対象に意識調査、大学での留学生交流、生活での問題点のアンケートなどをしたり、大使館や文化会館などを訪問しインタビューを行いました。アジア文化会館を訪ねた私たちはアジア文化会館主任、水須善幸さんから日本に勉強しに来ている留学生について話を聞きました。このアジア文化会館にきている主な学生は東アジアの国々の人が多く、その中でも親からの援助だけで生活していける、家庭に余裕がある人達しか来ていません。留学生の人たちはここで勉強

して、自分の国に帰り日本語を生かせる仕事に就く人もいれば、このまま日本に残り大学を受験し、大学に通い日本で就職をする人もいます。基本的に、1、2年という短期間で日本語を学ばなければいけないのでとてもやる気のある優秀な学生しかいないということです。また、日本の最も重要な開発パートナーであるバングラデシュ大使館でのインタビューを通じて日本に来ている国・私費留学生の割合などを調査しました。最後に東京YWCA留学生相談室では日本語勉強についてどのような悩みを抱えているのか、主にどんな問題について相談に来るのか、近年において政府の留学生政策はどんな傾向が見られるかなどが分かりました。

これまでやったことをレポートにまとめて紅陵祭でパネルを用いて発表しました。

成果

我々の学生チャレンジ企画「日本でのらくらく生活マニュアル」の実施において、日本人学生、留学生、関連団体、機構に対して調査を行った結果、下記の成果があげられた。

1. 外国人生活実態の把握

今回の企画を通して、我々は多くの在日外国人を調査し、アンケートの回収により彼らの意見をまとめた。その結果から、在日外国人の日本での生活の難点が明らかになった。結果によると、今の在日外国人は生活水準が昔より高く、今まで問題視されてきた生活における基本的な行動(消費、ごみの分別、基本的なしつけと礼儀作法)は多くの外国人にとってもはや問題とはならない。

ただし物質的生活が豊かになる反面、彼らの精神面における「生活」はまだ貧しい状態にあるという結論を出さざるを得なかった。調査によると、多くの外国人の普段のコミュニケーションはほとんど同国出身者とのものであり、日本人の知合いが少ない、或いは深い交流はあまりない事が分かった。つまり日本で生活ができたとしても厳密に言うと日本社会には溶け込んでいないのである。

なぜ彼らを交際サークルに入れないのか原因を究明するため、彼らを受け入れる団体(主に各種の学校)の日本人の意見を求めた。アンケートの結果によると、意外なことに、多くの日本人、特に学生は外国人との交流に抵抗がないことが分かった。つまり日本人も外国人とコミュニケーションをとりたく、好奇心旺盛な若者なら、なお多かった。

2. コミュニケーションができない理由

ではお互い交流する意欲があるのに、なぜ両者の間でコミュニケーションができないか。その理由についても調査した。

回収したアンケートの回答からみると、外国人留学生があげられた理由はいくつかのポイントに集中している。

理由の一つはまず日本語能力である。多くの留学生たちは日本語に自信がないゆえ、日本人学生との交流を避けている。実際に交流に支障がないくらいの日本語能力を持っている学生も、交流に自信がないと考えている人が多い。我々はこれを留学生の主観的な理由だと考えている。

理由のもう一つは交流の時間がない。多くの留学生は生活

水準が高くなったといえども、ほぼ全員アルバイトをしている。これは彼らのプライベートタイムをほぼ全部占めている。学業とアルバイトの両立だけで精いっぱいなのにと、日本人との交流に時間を割くのは難しい。我々はこれを留学生の客観的な理由だと考えている。

さらに理由を挙げると、そもそも交流の機会がないこともあげられる。これは日本人学生の意見とも一致した。すなわち、日本人学生と留学生はどちらもお互いに交流できるチャンスがないと思っている。これは今後の課題になるが、上記の主観的、客観的な理由に比べ、交流の機会を増やすことは比較的容易に改善できると思う。

3. 実際に外国人を取り巻く環境からの「機会作り」の現状を調べるため、我々は大使館などの政府機構及びアジア文化会館、留学生相談室などの民間団体を訪問し、サポートの現状を尋ねた。

結果からいうと、外国人に関連するこれらの機構、団体もそれぞれのできる限り外国人に交流機会を増やし、イベントなどを通じてサポートしようとしている。だがイベントどころか、それらの団体の存在すら知らない、或いは団体の名前は知っていても、どんな事業をしているかは分からない外国人がほとんどであった。これらの団体が、いかに自分の知名度を上げる宣伝やイベント参加の呼び掛けに力を入れるかが今後の課題だ。

4. 今回の企画の実施や調査結果は拓殖大学2011年紅陵祭(10月14日～16日)で展示され、多くの来場者に我々の調査結果を見せた。多くの一般人の方も外国人の生活現状に注目するようになった効果もあると考えられる。

上記の成果及び現状の把握は前述の調査対象の意見からまとめたものであり、調査対象の数量が多く、サンプリングの結果を全てとはいかないものの、ある程度客観的に在日外国人の生活実態を反映でき、今後国、自治体の政策傾向、関連機構のサポート方法の設定において参考とする価値はあると考えられる。

反省点・感想及び意見

今回自分たちは日本に来た留学生に対して、日本での生活で困っていることなどを聞き、どのように改善したら日本で過でしやすくなるのか調査しました。

調査の結果はほとんどの留学生の人が、日本人の学生とは友達になりにくいとっていました。やはり日本は島国というのも影響しているのか、あまり積極的に外国人の人とはコミュニケーションをとらないのが現状です。この問題だけがすべてではないのですが、日本人はもっと積極的に外国人の人とコミュニケーションをとったほうが良いと思いました。

今回の取り組みにあたって、拓殖大学の留学生はもちろん、他の大学、各国の大使館、アジア文化交流会館などいろんな人や、機関にお世話になりました。

正直、他にも訪問すべき場所がありましたが時間が足りませんでした。はじめにもう少し具体的に行動内容や、訪れる

場所、メンバーの役割分担などをしっかり決めていればより良い調査ができたと思います。ここが反省点です。

はじめにも述べましたが、日本人はコミュニケーション能力が足りないと思います。今回の調査で気づいたことなのですが、日本という国は世界からみてもとても住みやすいし、治安もよく恵まれた国だと思います。留学生からのインタビューでは皆、「日本はとても魅力的な国だ。だから日本を選んで留学しにくるんだ。」とっていました。この言葉を聞いたときに、自分は改めて日本を好きになりましたし、日本以外の国も知りたいと思いました。日本人はもっと日本人であることを誇りに思い、いかに日本は世界からみても恵まれているのかを気づくべきだと思います。

今回の「留学生らくらく生活マニュアル」は来年も続けていきたいです。

今後の計画・展望

留学生らくらく生活マニュアルという企画を通して、今後の計画や展望も見えてきました。例えば、08年に政府は2020年を目途に30万人の留学生受入れを目指す「30万人計画」を発表しました。これで留学生の受け入れは緩和されるかもしれませんが、こんなに多い留学生を受け入れる社会の体制がちゃんと準備ができているかどうかは今の時点ではまだ不明です。そして、この30万人が卒業して彼らの能力を十分に発揮できる舞台を用意することが可能なのかも疑問です。また、留学されてきた方に多い問題として日本の物価の高さという経済的な問題があります。この留学生政策と経済的な問題はセットで考えなければならないと感じました。留学生はほとんどの時間を勉強に費やすので、バイトなどの就労が難しく、家庭からの仕送りが可能な裕福な家庭の人達しか留学することができないからです。だから、このような課題を解決できるようなシステムを、国の法整備によって構築していかなければなりません。しかし、この問題は一般の学生には解決することが容易ではありません。対して実際にアンケート調査をしてみると、留学生が一番求めていることは日本人との関

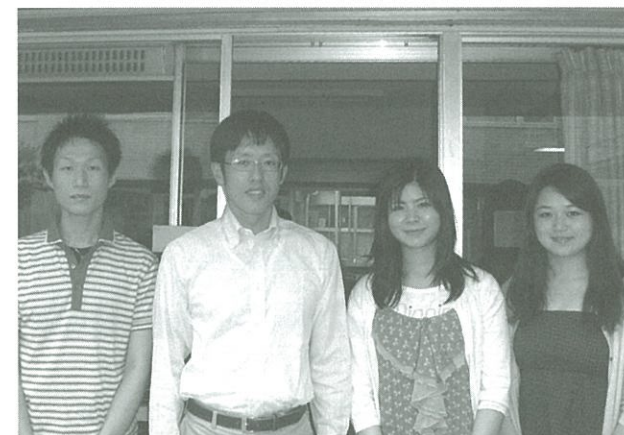
係を築くことです。しかし大学生活での留学生との交流は、ほとんどの留学生が固まって行動していて日本人が彼らとコミュニケーションを取ることが容易ではなかったり、日本人のシャイな気質によって積極的に留学生と友達になれていません。また、必修科目が一緒になる機会が少ないことも一つの要因だと考えられます。このような課題ならば私達、一般の学生でも改善していくことが可能ではないでしょうか。まず授業の面では少人数のクラスを作り、留学生とミックスにしてお互いの文化や思想などの意見交換を出来る場を設けたいです。現状の生活面では、今の校舎に留学生とコミュニケーションすることが出来る場が少ないので異文化コミュニケーションルームなどを設置することも提案したいと思います。最後に、このような企画を通して、多種多様な国々の方々と交流することによって、拓殖大学の目指すグローバルな人格の育成の手助けになるよう、企画のさらなる発展を目指していきたいと思っています。

支出報告書

支出総額	140,513円
給付額	140,000円

【内訳】

品名	単価	個数	小計
(単位円)			
＜交通費＞			
各自宅～拓大八王子往復		12人	26,880
茗荷谷～早稲田往復		2人	1,440
茗荷谷～目黒往復		2人	1,400
茗荷谷～御茶ノ水往復		2人	1,400
茗荷谷～池袋往復		12人	3,840
飲み物代		100人分	11,380
飲食代		6人	7,900
文房具代			2,068
アンケート作成費(プリント用紙 インク)			15,870
雑費			8,975
日本人と留学生の交流会 一回目		10人	24,160
日本人と留学生の交流会 二回目		15人	35,200
			合計 140,513円



ABKアジア文化会館で留学生の現状を聞きました。(左から根本、水須先生、町田、陳)



(左から周、ホン、町田)